

## 【虚実の考え方と薬方 2】

(虚実のイメージ)

読者の皆さんも、あの人はがっちりしてるねとか、あの人は元々弱いからといった表現をされることがありますね。

一般的に、頑健な体格の人を「実証」と考え、虚弱な筋骨の発育の悪い人を「虚証」と考えがちですが、平素健常な時の体格や体質は、その方が病気になった場合の「虚実」とはあまり関係のないことが多いようです。

健康な状態は「陰陽虚実トモニ和ス」といわれますように、虚実のバランスが調和している状態であり、虚実の概念はあくまでも患者さんを対象にした表現です。

西洋医学的に、交感神経系の緊張型（いつもイライラしていて、ちょっとしたことでむかつ腹を立てる方）を実証、副交感神経系の緊張型（何となくごろごろしている人をさすのでしょうか）を虚証とよぶ考え方もありますが、これも「虚実」を自律神経系統という生体の一部分の作用のみによって判断することは、漢方治療上誤った判断につながる可能性があります。虚実の判断は、生体のすべての働きを総合的に観察していかないとけません。